

ンチャンコも、その弓ヶ浜
耕だったはず。名作「丸い
輪の世界」は、死別した妹
を冥界に訪ねる物語だが、
その冥界の花園は、ほぼ同
年配で従軍体験を共有する
画家、近藤弘明の《寂光》
の光景に通ずる。北米舶来
の同時代漫画には、扉を開
くと別世界に通ずる作品が
あった。それは水木の「丸
い輪」のみならず、寺山修
司や藤子不二雄らにも着想
を提供し、60年代の幻想風
景を形成したはずだ。

その一方、目玉親父は、鶴
見俊輔が激賞した岩明均の
傑作『寄生獣』にも、変身を
遂げて出現する。その『寄
生獣』の発想源のひとつに
水木の「宇宙虫」を想定して
も、的外れではあるまい。
そうした連想やイメージの
融通無碍な揺曳ぶり、作品
から作品への自在な換骨奪
胎ぶり、intertextualityなら
ぬinterpictorialityの生態学
は、水木しげるが後世に残
した遺産のひとつだろう。
かたちはいかに姿をうつし、
棲家をうつり、新たな
生命を育みつつ憑依転生を
重ねるのか。

今頃水木サン之魂は、故
郷に戻って妖怪たちに仲間
入りしておられよう。何年
後のことかは定かでない
が、当方もこの世での「ネ
ズミ男」的などちつかず
の恥ずべき生存からオサラ
バすれば、境港の隣の墓地
に葬られる。妖怪同士の野
球大会で「水木サン」にあ
いまみえるのが、なにやら
今から、来世の愉しみとな
ってきた。

から失った息子を故郷に迎
え、「もうちょっと長うなけ
ないかんよ」と諭した、あ
の父上である。絵心がある
などと煽てられた小学校低
学年の子供は、無理に気張
って背伸びした絵を拵え、
東京の次男坊殿のもとに送
った。お札に墨筆の色紙が
到来した。その鬼太郎は、
今なお広島の実家を飾って
いる。1965年の出来事だ
ったかと記憶する。

先年、米国人の研究者、
ジュディス・ラビノヴィッ
チ夫妻を伴って境港を再訪
した。すると様々なことが
判明した。現在の水木しげ
る記念館は、かつての生田
屋割烹店。日本海の高瀬と
漁獲で賑わっていた湊町で
も一番の老舗であり、我が
家の曾祖父もその生田家か
ら土地を拝借していた。小
泉八雲の松江時代に境小学
校の校長を務めたこの曾祖
父の足跡は、南畝と号した
漢詩群に残存する。そこ
には、「懐武良君」も見付か
った。誰の遺徳を偲ぶ詞藻
かなお不詳だが、茂の曾祖
父、惣平は境港で海運業を
営んだ人物として知られて
いる。

境港は、島根半島を北に
望み、太古、大山の麓を流
れる日野川から運ばれた大
量の土砂が形成した砂州の
先端、境水道の手前に成立
した。異様に長細く平坦な
その弓ヶ浜にそって米子か
ら境港へと延びる単線鉄道
の途中には、一反木綿の駅
もある。瘦せた砂地での綿
花栽培が布の妖怪の起源を
なす。鬼太郎の羽織るチャ

連載
161
武良家の人々にまつわる私的回想
死後の世界と揺蕩う魂

稲賀繁美
国際日本文化研究センター研究員・
総合研究大学院大学教授

幼少の夏休み、屋下がり
の思い出である。祖母の旧
屋に近所の老夫妻が訪ねて
きた。うちの次男坊も最近
すこしばかし有名になっ
て。そう切り出した老夫人
は、当家の孫に些か絵心が
あると聞くと、それはよか
ったと、何冊かの漫画本を
手向けてくれた。河童が踊
り、人間に騙されて皿を取
られる話。巖流島の決闘の
後、旅籠につが訪ねまい
かと頻りに様子を窺ううち
に、落ちてきた盆栽に直撃
されておデコにコブをつく
る武蔵。さらには鳥籠のな
かに不可視の小人を養い、
そこから「運」という家質
を得る少年の物語。そうし
た不思議な世界へと誘われ
ていったのを、今も鮮明に
覚えている。境港という山
陰の漁師町での出来事だ
った。

ローカル線の終着駅から
砂浜まで、一本の道が東西
に延び、両側に商店が連な
っている。今では水木ロー
ドと呼ばれるその道を隔て
て、港のある北側の三崎町
に武良家があり、道の南側
の東雲町に我が家があっ
た。祖母・きくのは武良家
の亮一・琴枝と小学校の同
級生という幼な馴染み。の
ちにNHKの朝のテレビ小
説で竹下景子が演じたが、
ハキハキとして気丈な琴枝
さんの姿が、臍げな記憶の
底から蘇ってきて、驚いた。
丈はあるが瘦せ気味の亮一
さんは、夫人の半歩後ろに
佇み、子供心にもおっとり
とした風貌が伝わってきた。
ラバウルで左腕を膺先